



お申し込みフォーム：[https://www.jmc.ne.jp/gigasem2201\\_11/](https://www.jmc.ne.jp/gigasem2201_11/)  
お問い合わせ：株式会社 JMC 高校 GIGA オンラインセミナー窓口  
giga\_seminar@jmc.ne.jp

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■  
□【1】関連省庁・団体ニュース ～どうなる？ 今後の学校 ICT～  
■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

◇◆ トピックス (1) .....  
文部科学省「令和3年度補正予算案(案)」を公表  
.....◆◇

文部科学省は11月、令和3年度補正予算案(案)を公表しました。

「学校等の感染症対策等支援」に305億円、  
「個別最適な学びを実現するためのGIGAスクール構想の推進」に  
201億円の新規予算が計上されています。

「学校等の感染症対策等支援」では、小・中学校、高等学校、特別支援学校等を対象に、  
CO2モニターなどの保健衛生用品の追加購入費などが補助対象になっており、  
感染対策を徹底しながら教育活動を継続するために必要な経費を支援する方針です。

「個別最適な学びを実現するためのGIGAスクール構想の推進」には、  
以下の4事業が盛り込まれています。

- (1) GIGAスクール運営支援センター整備事業 52億  
学校や市区町村単位を超えて広域的にICT運用を支援する  
「GIGAスクール運営支援センター」の各都道府県等への開設準備や、  
全国一斉の学校ネットワークの点検・応急対応に必要な経費が計上されています。  
一人1台端末の本格運用が始まり、運用面の支援の強化が求められていることから、  
各自治体が自立してICT活用を進めるための運営支援体制を早急に整備する方針です。
- (2) 学校のICTを活用した授業環境高度化推進事業 84億  
教師に端末を追加整備する際に不足する分(教員数-普通教室数)と、  
カメラやマイクなどのオンライン教育推進機器、遠隔教育支援ツール等を  
追加整備する際の経費が計上されています。  
時間や場所に制約されない質の高い教育を行うため、  
対面とオンライン学習のハイブリット教育を充実化していく方針です。
- (3) GIGAスクール構想推進のための学習者用デジタル教科書活用事業 35億

令和 6 年度のデジタル教科書本格導入に向けて、  
国・公・私立の小学校 5・6 年生と中学校全学年にデジタル教科書を提供し、  
紙とデジタルの役割分担の在り方について検証を行う方針です。

(4) デジタルコンテンツとしてのデジタル教科書の配信基盤の整備 30 億  
コンテンツが重くネットワークに負荷がかかるなどの  
デジタル教科書のさまざまな課題について、必要な環境整備や検証を行います。  
さらに、文部科学省はデジタル教科書の要件定義を示し、  
それに対応したデジタル教科書や配信方法を教科書発行者が開発、実証する方針です。

新型コロナウイルス第 6 波への備えや、一人 1 台端末など ICT の更なる活用に向けて、  
文部科学省の方針や動向をチェックしておきましょう。

▼令和 3 年度文部科学省補正予算（案）事業別資料集

<https://www.mext.go.jp/content/000147433.pdf>

◇◆ トピックス (2) .....

相模原市教育センター「さがみはら GIGA 通信」を定期発行

.....◆◇

相模原市では、GIGA スクール構想により、  
一人 1 台端末を 2020 年 9 月に導入し、積極的に活用をしています。

端末の活用促進のポイントや課題の解決方法などについて、  
相模原市内の先生に知っていただくために、相模原市教育センターでは、  
2021 年 9 月から「さがみはら GIGA 通信」を定期的に発行しています。

相模原市の小・中学校が、GIGA 端末を活用した  
新たな学びに取り組む様子などを掲載しています。

具体的な事例とともに掲載されているので、  
ぜひ参考にしてみてください。

▼令和 3 年 11 月 30 日 さがみはら GIGA 通信 第 5 号

[http://www.sagamihara-kng.ed.jp/jouhou-han/kyouikunoujouhouka/data/20211130\\_sagamihara\\_GIGA\\_tsushin\\_005.pdf](http://www.sagamihara-kng.ed.jp/jouhou-han/kyouikunoujouhouka/data/20211130_sagamihara_GIGA_tsushin_005.pdf)

▼相模原市 教育の情報化

[http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouikunoujouhouka\\_top.html](http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouikunoujouhouka_top.html)





□【3】 学校 ICT・セキュリティコラム ～研究を重ねた専門家が指南～



---

◆教育 DX の先にある学校の存在意義◆

内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）審議官 合田 哲雄

---

子どもたちに一人1台の情報端末が整備され  
教育 DX（デジタル・トランスフォーメーション）が進む中、  
一人ひとりの子どもたちの認知の特性や関心に応じた  
個別性の高い学びと協働的な学びの両立のために、  
教室の風景は大きく変わる。  
これまでの一斉授業で重視していたのは、  
試験問題が配られたら直ちにその文字情報を理解して、  
自分を「空」にして標準人として迅速に反応できる能力で、  
それ以外は切り捨ててきたが、DXの時代の今、他者と違ったり、  
異なったりすることに意味や価値がある時代になっているからである。

発達障がいの困難さに向き合っている子、  
特定分野に特異な才能を持つギフテッド、  
タレンティッドと呼ばれる子、  
両親が外国人で日本語指導が必要な子、  
どうしても教室に行くことができない子などは、  
情報端末のスタディログを生かしながら、  
教育支援センターや不登校児童生徒特例校、校内フリースクール、  
大学や研究機関などさまざまな場で学びを重ねることができる。  
学習指導要領の各教科等の一つ一つの単元にコードが付され、  
デジタル教科書やデジタル教材の内容は  
このコードに紐づけられることが可能になると、このコードを活かして、  
これまでの教育内容の習得が不十分だった子どもは AI 教材などを活用して  
その確実な習得に向かって自分の学びを調整したり、  
特定分野で特異な才能を持つ子どもについては  
教育課程の特例を設けて一足早く大学や研究機関で  
専門的な学びを行ったりできることとなる。

このように子どもたちの学びは時間的にも空間的にも多様化すると、学校に子どもたちが集まり、協働して学びを進める意味は何かと問い直す必要が生じる。

個人の学力を定着させることのみが目的なら、必ずしも学校は必要ないだろう。

特定教科の多肢選択式問題に対応すべく

知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用のみを

目的とした学習は、AI教材や予備校の一流講師による授業動画に

代替されるとの指摘は現実味を帯びる。

このように、他者と同じことができることが評価される社会の価値観が維持され、

大人が採点しやすい知識再生型のテストを軸とした教育が行われるままで、

情報端末を活用した教育の個別化が進展することは、

子どもたちがアルゴリズムやAIが指示するとおりドリル学習を

徹底するという事態となる。

しかし、教育基本法第5条第2項は、義務教育の目的として

①社会的な自立、②国家・社会の形成者（持続可能な社会の創り手）の育成を求めている。

この社会的自立と持続可能な社会の創り手の育成という

学校の存在意義に照らして何よりも大事なのは、

子どもたちが自分の認知の特性や関心に応じて学びの目的を自ら見定め、

自分で自分の学びを調整したり、他者と対話し、

協働して「納得解」を形成したりできることであり、

これらはフィルターバブルで動揺する民主政の基盤でもある。

学校の役割は、知識の習得にとどまらず、

子どもたちが、習得した知識や思考を活かしてより善く生きようとか

より良い社会にしようとするための教育実践を重ねること。

だからこそ、子どもの学ぼうとする心に火を灯し、

ICTを活用して単元の内容をより構造的・立体的に理解できるような授業を演出し、

「学び合い」や「教え合い」でクラス全体の知識の理解の質を高めたり、

討論や対話、協働を引き出したりするという教師固有のかけがえのない役割は

学校の存在意義そのものである。

※ このような議論を、文部科学省や経済産業省と連携して

総合科学技術・イノベーション会議で行っています。どうぞご覧ください。

(<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/index.html>)

#### ◆ 執筆者プロフィール ◆

内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）審議官 合田 哲雄

70 年生。福岡県教育庁高校教育課長、NSF フェロー、  
初中局教育課程課長、財務課長等を経て現職。  
上越教育大学非常勤講師。

単著に『学習指導要領の読み方・活かし方』。

共著に『学校の未来はここから始まる』、『メディアリテラシー』。

目黒区立小中学校の PTA 会長を 6 年間経験。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

---

< 事務局 >

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会 (ISEN)

〒153-0061 東京都目黒区中目黒 1-8-8 目黒 F2 ビル 1 階 (株式会社 JMC 内)

<https://school-security.jp/>

---

▽ 「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が  
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、  
下記フォームよりご連絡ください。

<https://fs220.xbit.jp/y592/form3>